

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400739		
法人名	社会福祉法人 円融会		
事業所名	グループホーム サルビア		
所在地	兵庫県神崎郡福崎町大貫580 (電話) 0790 - 22 - 6001		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月5日

【情報提供票より】(平成19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算	10.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	約17,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8	要介護2	5		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 81.8 歳	最低	69 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田医院・加西市民病院・原田歯科
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

4階建ての新型特別養護老人ホームの一部としてグループホームサルビアがあり、1階の「めぐもり」と2階の「めぐみ」の2ユニットで構成されている。周りの環境は田園が広がり、のどかで見晴らしも申し分ない。ホームが管理する畑では、さつまいもが収穫の時期を迎えており、入居者の方々と芋掘り、また、それを素材にした料理も楽しみである。法人との共通理念である『共に暮らす』のもと、できない事をできる人が補うという視点にたった支援が行われている。入居者の方の表情は穏やかで、ゆったりとした雰囲気がある。開設3年目となり、さらに地域に密着し、馴染んでほしい。また、書類面においては、負担にならず有効で、誰にでもわかりやすく、そしてサービスの向上に繋がるよう工夫されることが望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 理念の周知に関して、掲示も一つの方法と捉え、玄関の他にも入居者の方が毛筆で書かれた理念が飾られていた。介護計画などの書類や記録は書式を変えるなどの改善が見られたが、定着するにはいたっておらず、更に改良しようと試みている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 今回の第三者評価を受けるにあたり、職員一人ひとりが自己評価項目すべてを見直し、それをユニットごとに検討し、最終的に1本にまとめている。評価をすることによって、新たな気づきを見出し、より良い支援に繋がるように努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 19年は3月と5月に開催している。参加者は、区長、町の健康福祉課、包括支援センターとホームの職員となっており、グループホームを広く知ってもらうための内容となるよう、検討されるといいのではないかと。今後は、家族や民生委員にも参加を働きかける計画もあり、防災対策や地域行事参加など、地域密着のための活用が期待できる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 家族の来訪時には必ず声をかけて状況などを話して報告している。心身の状態に変化があった時には電話できめ細かく伝えている。しかし、定期的な報告には至っておらず、今後の取り組みを考えている。家族会は年2回開かれており、意見・不満などの表出の機会はあるが、運営推進会議への参加など、外部者にも安心して意見が出せるように働きかけてほしい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 母体の介護老人福祉施設と合同で地域に開放された行事を開催している。自治会や老人会への入会は自治会費の捉え方などによって叶っていない。ふれあい喫茶やクリーン作戦などへの参加をしていきたいと考えており、運営推進会議の場を利用するなど、積極的なアプローチを期待したい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『共に暮らす』という法人の理念を、管理者はじめ職員全員が理解しているが、ホーム独自の理念としては、言葉にされていない。		施設とグループホームとは、その内容は大きく違うので、『共に暮らす』という法人の理念をもとに、ホーム独自の理念を職員と相談されて言葉にされることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念については、管理者と職員は、その内容を理解し、同じ目線で共に暮らすことを目指して日々取り組んでいる。		管理者と職員は、法人の理念について十分理解しているので、今後は全職員で、作ったホーム独自の理念をもとに、協力して日々の取り組みに活かされてはどうだろうか。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と職員は、近所の散歩に出かけた時にお花の種をいただいたり、近所の方に畑のお野菜をいただいたりして交流に努めている。		管理者は、地域とのつきあいがあらゆる面で重要なことであることを理解しており、地域との交流も検討されている。ホームや利用者が地域の一員として暮らす中で、いろいろな行事等を通じて地域活動に参加し、一緒に交流していくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめ、職員全員で自己評価を実施しており、第三者評価を実施する意義を理解し、評価の結果も全員で確認することで改善に取り組み、入居者の暮らしに活かしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	3月と5月に開催されており、地域の方や自治体の担当者を含めて、ホームでの取り組みなどについて話し合いが行われていた。		今後は、さらに広く地域の方や入居者の家族の方等にも参加してもらい、サービス向上に活かしてほしい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	管理者は、町の担当者とは常に連絡をとり、運営推進会議だけでなく、利用者のことや、ホームの運営について共に情報を共有しながら入居者のサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	現在は、家族への定期的な報告はされていないが、ほとんどの家族が毎月ホームを訪れており、職員はその都度入居者の様子などを伝えている。		来訪される方、遠方でなかなか来れない方も含めて、入居者の健康状態や金銭管理、職員の異動等について、定期的に個々の状況に添った報告をされることが望ましい。
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	年2回、家族会を開催しており、その他に電話や来訪時に『こちらから問い掛ける』ことを基本に機会を作っている。		家族等からの意見を外部者へ表せる機会を設けるために、意見箱の設置や、運営推進会議への参加も家族へ声掛けすることなどを含めて、話しやすい環境の整備の具体的な実施を期待したい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人内の事業所間の異動が、年2回定期的に行われているが、急激に複数の異動がないように相談して1名ずつの異動にとどめるようにしている。		日頃から併設の特別養護老人ホームと交流があるため、職員に馴染みがあり、1週間から2週間の引き継ぎ期間でスムーズな引き継ぎができています。しかし、入居者や家族への説明は十分とはいえない。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人としての研修と、外部研修への参加は希望者に受講するように情報を公開しているが、受講した研修記録の整備が不十分である。職員を段階に応じて育成するための計画はできていない。</p>		<p>職員を育てる取組として、新任者から経験のある職員まで、それぞれに応じた、そして利用者の暮らしを支えるための知識や技術を習得する機会をつくり、計画的に進めてほしい。参加できなかった職員のためにも記録を整備し、いつでも閲覧できるようにされることが望ましい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、町内の同業者と交流を持つことが、サービスの質の向上に繋がることを理解しているが、現在はまだ、その取り組みができていない。開設3年目を迎え、町の担当者や運営推進会議等でも提案し、今後取り組みたいと計画されている。</p>		<p>管理者は、事業所開設3年目になり、町内の同業者との交流やネットワークなどが、サービス向上のためや職員の資質向上のためにも必要であると感じている。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用が決まると、必ず本人と家族には見学をしてもらい、本人が馴染めるようお茶と一緒に飲んでもらったり、家族と相談しながら無理なくサービスが利用できるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で、職員は利用者と共に過ごすことを大切にしている。食事の準備や調理は、利用者に教えてもらいながら一緒に取り組む毎日である。できないことをできる人が補う姿勢で、支えあう関係を全員で築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、本人にとっての思いやどのように暮らしていくかを声かけや表情などから汲み取るように努めている。意思の疎通が難しい方にも、日頃の暮らしぶりや行動などや家族からの情報によって、思いを把握するように努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がより良く暮らす支援のために、利用者や家族の意見や希望を含んでケアマネジャー（介護支援専門員）及び、計画作成担当者、ケース担当者が介護計画を作成しているが、アセスメントシートや相談した記録、カンファレンスの内容を確認できるものが不十分であった。</p>		<p>利用者がその人らしく暮らせるような介護計画を作成するために、本人や家族の話を聞き、関係者とともに、意見や気づき、アイデアを反映できるような取り組みをされるのが望ましい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状態について常に目を配り、本人や家族からも話を聞いた上での介護計画の見直しが必要であるが、日々の記録、及び職員や関係者との相談や話の内容の記録が不十分であり、それが介護計画の見直しへ繋がる計画の見直しが確認できなかった。</p>		<p>小規模できめ細かいケアが特徴の地域密着型サービスでは、期間にとらわれずに利用者の変化に応じて本人や家族等と話し合い、臨機応変に見直しを行うことが必要である。日々のケアの記録や家族との相談の内容等を整理され、さらに現状に即した計画の作成を目指してほしい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域密着型サービスの多機能性を活かした支援は、現在はまだ行われていない。</p>		<p>地域に密着したサービスにより、地域の方や利用者が求める多機能性に事業所として対応できることや、配慮できることを検討してほしい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を大切にし、できるかぎり、今までの医療機関を受診できるように支援している。また、家族の付き添いができない場合には、職員が家族と連絡を取り、付き添っている。		現在ほとんどの方は、利用前にかかっておられた医療機関をそのまま利用されており、それぞれの通院のリズムによって、家族とも連絡を取り、かわらない医療体制で過ごせるように支援している。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在開設3年目であるが、入居される際には、元気で暮らしていただくことを前提に話をしていく。現時点では、重度化・終末期に向けた方針は明確にされていない。		今後は、入居者の心身の状況が少しずつ重度化した場合や終末期のあり方、事業所が対応しうる最大の支援方法について、話し合う機会を持ち、方針を形にして共有されることが望ましい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は基本的に目につくところに置かず、プライバシーを損なうような声掛けや対応には十分注意している。		研修やミーティングの時に一人ひとりの尊重やプライバシーの確保を徹底してほしい。また、具体的に確認し合うことも重要と考え、話し合いの場を作っていけることが望ましい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースに応じた日常の中での支援を大切にしており、散歩に行きたい入居者には、その時に一緒に行くようにしている。早朝より、畑仕事をされる方もおられる。		一人ひとりの生活のリズムや、その日その時したいと思っていることを大切に、その人らしい暮らしができるよう支援してほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や調理に関して、入居者と職員と一緒に取り組んでいる。野菜を切ったり、味付けしたりと、出来ることをしてもらい、できない部分を手伝う姿勢で支援している。時々外食に出かけたり、行事食を特別に作ったりすることも一緒にしている。		一緒に食事の準備をするように食事を一緒に楽しむこともぜひ取り組んでほしい。また、畑の新鮮な野菜もふんだんに使う毎日の食事の献立作りや、好みのを取り入れるなど、さらに工夫を重ねてほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、入浴時間は一般家庭に近い状態で、夕食後にしているが、その他の時間でも希望があれば、夜でも対応している。一部の時間帯では難しいが、現在は、ほぼ希望に応えられている。清潔保持の意味でも大切な支援となっている。		利用者の希望に合わせていくと、時間帯は遅い時間帯になっている。職員の都合ではなく、利用者の入りたい時間を優先して支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や掃除、食事の準備など、それぞれにできることをしていただきながら役割や楽しみ、気晴らしの支援をしている。畑仕事が好きな入居者にも、自由に畑に出かけられるように早朝に玄関を開けている。		入居者がそれぞれに、日常生活の中で、役割があったり、楽しみ事ができる環境作りも必要ではないかと思われる。また、気晴らしや、やりがいの支援についても、個々の生活歴等を考慮して、試みられることが望ましい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、本人の希望によって、外出の支援を行っている。公園の花見、ホタル狩り、加西の古墳を見に行ったり、セントラルパークへの外出の支援もしている。		個々の入居者が、今までの生活の継続として、これまで通り外へ出かけることを支援していき、地域の人々の理解と協力を得ていくためにも、今後もこの取り組みに期待している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯上の施錠以外は、一切していない。居室の施錠も、希望や必要となる方のみ夜間施錠している。		時々散歩に出られる入居者もおられる中、一切の施錠をしないで、職員は協力して入居者の生活を支援している。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併施設との合同避難訓練では、年に1回の防災訓練と、年に2回の通報訓練が行われており、利用者と共に参加しているが、ホーム独自の災害に対する対策は十分とはいえず、全職員への周知とともに今後の課題である。		全職員は、一人ひとりの入居者の状態を十分把握した上で、昼夜を問わず災害時の具体的な避難対策について、検討、周知そして行動ができることが重要である。近隣住民の協力についても運営推進会議や行事、日頃の交流を通しての取組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者全員の方の食事や水分摂取の支援について、細かい記録がされているが、日常的な支援に役立つか、全職員にわかりやすいものは、検討が必要と思われる。個々の食習慣なども視野にいれてほしい。		入居者の身体状況などから、細かい記録や支援が必要な方への取り組みはできているので、さらに全職員には、必要な記録を簡単にわかりやすくして、水分摂取量や栄養バランスのチェックを定期的にもしてもらいなど、工夫されてはどうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である食堂やテレビの周りには、手作りの置物や作品が飾られて、くつろぎのスペースになっている。全体が落ち着いた色合いでまとまっている。玄関の入り口がすりガラスの扉で、少し冷たい感じがする。中には季節の花などがあるが、入口は、親しみのある居心地の良い入口とはいえない。		ホームの中には、コーナーなどに喫煙場所として、椅子が置かれていたり、食堂とは別にテレビの前にはソファがあって、くつろげる。室内には、季節感のある掲示物や、花が生けられてゆったりできる場所である。玄関の入り口については、是非、より良い空間になるよう検討をしてほしい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当日見せていただいた居室には、使い慣れた筆筒や小物がいろいろと置かれて、我が家にいる時に近い空間づくりに配慮されている。ご自分の作品やご家族の写真、お位牌などを置かれている入居者もおられる。		

 は、重点項目。